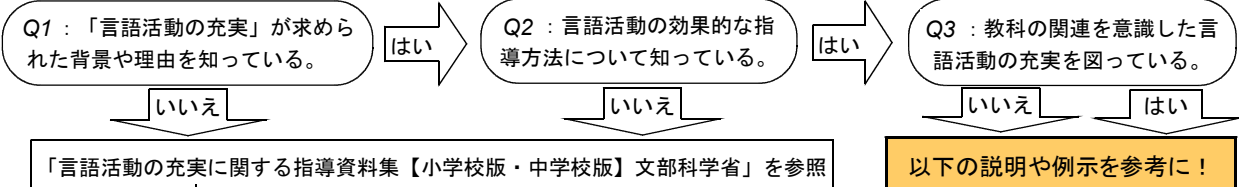


Q2： 言語活動の充実が求められています、実際にはどのように取り組んでいけばよいですか。

はじめに

今回の学習指導要領の改訂では、国語をはじめとする言語に関する能力の重視を打ち出し、学校教育における全ての教科を貫いて言語の能力を育成することが示されました。そこで、「言語活動の充実」についてチェックしてみましょう。



「言語活動の充実に関する指導資料集【小学校版・中学校版】文部科学省」を参照

以下の説明や例示を参考に！

大切な2つのポイント



今回は、今年度全面実施となる中学校の取組を主に取り上げて説明します。(もちろん、小学校においても共通する内容であり、参考にしてほしいことです。) まず、「言語活動の充実」を進めていく上で、次の2点を押さえる必要があります。

- 言語活動が、各教科等の学習のねらいを効果的に達成するための手段であること
- 言語活動が、思考力・判断力・表現力を育成するための手段であること

今までの学習活動の見直し・改善

特に、教科担任制である中学校においては、言語能力の育成の中核を担う国語科でどんな指導を行い、どんな能力を育成するのか、また、国語科以外の各教科等ではどんな力を身に付けさせるために、どんな指導を行うのかをお互いに理解し合うことが大切です。各教科等においては、これまでの授業で行われてきた学習活動を見直し、思考力・判断力・表現力等の育成という視点で整理することが求められます。具体的には、以下のような手順を進めてみるとよいでしょう。

■進め方の手順

- ① 今までのどの学習活動が言語活動に該当するか。
- ② 洗い出した言語活動は、次のどの部分と関連が深いか。
 - ・基本的な用語や概念を理解したり、テキストから情報を取り出したりする。
 - ・情報や既習の知識に基づいて推理したり考えたりする。
 - ・自分の考えたことや気付いたことを表現する。
- ③ 教科の目標を達成し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するには今までの活動をどう改善すればよいか。
- ④ 児童生徒に身に付けさせたい力を付けさせるために、新たに取り入れるべき言語活動は何か。
- ⑤ これらの言語活動を、授業の中のどの場面で、どのように行うのか。

■中学校の例

一度にはなく、少しずつ埋めていくとよいでしょう。

指導要領と教科書に沿って「書くこと」の文種を洗い出します。

国語科で指導する内容をリストアップします。

各教科・領域等の「書くこと」を表に入れていきます。

シラバスを活用している中学校もあります。

中学校において言語活動の充実を図ろうとするとき、全校体制で組織的に取り組めるかが、大きなポイントとなります。それぞれの教科・領域等に任されてしまうことのないよう、例えば、以下のように「書くこと」に関わる一覧表を作成して、活用することにより、全校体制で進めることができます。

文種	記録	説明	論述	報告	鑑賞	手紙
国語	4月「教材名」	6月「教材名」	7月「教材名」	9月「教材名」	5月「教材名」	6月「教材名」
社会		7月「教材名」		6月「教材名」		
音楽		10月「教材名」			2月「教材名」	
美術		7月「教材名」			12月「教材名」	

また、国語科との関連を図り、国語科の学習指導要領に示されている指導事項や言語活動例について、校内で共有することにより、国語科での指導内容を生かした言語活動を取り入れることができます。例えば、中学校国語第2学年の「話すこと・聞くこと」に示されている言語活動例に「調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること」が取り上げられています。この根拠に基づく説明や発表は、各教科・領域等の話し合いの場面においても必要とされるものです。

言語活動の充実のための実践例

■学級活動の例

そこで、教科等の関連を意識した言語活動の充実のための取組の一つとして、学級活動の例を挙げてみましょう。

中学校における学級活動(1)で、題材名を「校内音楽会を成功させよう」と設定し、「話し合い活動」を通して、集団としての合意を形成する力を育成する例です。

活動の目標

校内音楽会における学級の合唱曲を決める話し合い活動を通して、自己の考えや思いを自分の言葉で表現するとともに、考え方の違いを超えて学級としての意見をまとめ、協力して実践していこうとする態度を育てることを目標としました。

活動の概要

この事例は、学級のまとまりを高めることを目指して行った校内音楽会の合唱曲の選定を議題とした話し合い活動です。

合唱曲については、それぞれの生徒が様々な希望をもっています。

そこで、最初に、音楽会や学級に対する様々な思いを伝え合う活動を行いました。そして、学級の目標や実態に応じた曲の選定に向け、根拠を明確にして話し合い、決まったことに対して互いに協力し、実践していくことを通して、よりよい人間関係を築く力や望ましい学級の風土の醸成を図ろうとしました。



話し合い活動①

自分が歌いたい合唱曲について、根拠を明確にして発表し合い、互いの意見を比べ合うことで、他者理解を深め、学級としてふさわしい合唱曲は何かについて考えさせます。

特に、アンダーラインの箇所が教科との関連を意識した言語活動に係る部分です。

◇ 選定条件や提案理由の明確化

事前に決定していた選定条件「歌詞」「曲調」、提案理由のキーワード「〇組らしい」「〇組の生活をよりよくするためにみんなで協力できる」

→ これらに沿った根拠を考えさせておき、本時で発表させる。

◇ 意見を比較させるための工夫

出された意見を絞っていくために、「なぜその曲を歌いたいのか」という理由を発表させるとともに、級友の発表のよかったところを明確にし、それぞれのよさを比較しながら意見の絞り込みを行う。

話し合い活動②

今の学級にふさわしい合唱曲を決定することで、校内音楽会に向けた活動意欲を高めます。

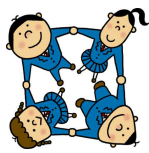
◇ 納得のいく集団としての意思決定を行うための質疑応答の時間の確保

集団としての意思決定の重みについて説明した上で、「最後に言っておきたいこと」「疑問に思うこと」「どうしても～にこだわる理由」などを言い残した生徒がいれば、発表の機会が与えられるよう配慮する。

◇ 校内音楽会に向けた活動意欲を高めるための工夫

本時の活動を終えての感想発表を帰りの会で行う。また、決定した曲の歌詞・歌い方・思いなどを記した掲示物を作成するとともに、合唱曲を上手に歌うための方法について話し合う。さらに、学級通信等を活用するなどして、相互に評価し合う場を設定する。

事後の活動



活動の効果

根拠を明確にした話し合いにより、学級活動のねらいに迫ります。

このような話し合い活動により、学級の一員としての自覚が高まるとともに音楽会に向けた望ましい学級の風土を醸成していくことができます。また、互いの考え方や価値観の違いを超え、思考力・判断力・表現力等を駆使して話し合うことを通して、自己理解・他者理解を深め、望ましい人間関係を築いていく上でも効果が期待できます。

おわりに

以上のように、国語科で学んだことを学級活動の話し合いに生かしていくことによって、学級活動をより豊かなものにします。また、同時に国語科で身に付けた力の一層の定着へとつながっていきます。これらのことは、学級活動の話し合い活動に限らず、他教科・領域においても同様です。教科等の関連を意識し、観察・調査・実験等の結果をまとめ、発表する活動などを効果的に取り入れることで、ねらいの達成や思考力・判断力・表現力の育成につながっていきます。